

# カーゴニュース

J A I L P A

「厳しい環境を乗り越えていくには」をテーマに第6回セミナー

日本物流不動産評価機構(JAAILPA)推進協議会(望月光政委員長)は13日、「厳しい環境を乗り越えていくには」をテーマに第6回セミナーを開催した。基調講演として、国土交

通省総合政策局物流政策課の角野浩之課長補佐が「物流政策の現状と課題」、日本物流施設(本社・東京都港区)の河田榮司社長が「物流センターの最新事情とこれからの物流施設への

## 物流データ

## 12年9月の普通倉庫21社統計

国土交通省の「普通倉庫21社統計」によると、主要倉庫業21社合計の9月の入庫数量は214万トで前年同月比3.8%減、前月比でも3.2%減となり、出庫数量は219万トで前年同月比5.9%減、前月比でも3.2%減となった。

この結果、9月末現在の保管残高471万トとなり、前月比では1.0%減となったが、前年同月比では1.4%増となった。

9月の動向について国土交通省は、自動車の生産調整やエコカー補助金による政策効果が一巡したことなどを背景に、その影響を受けた「その他の機械」の入出庫量が低調に推移したとしている。

1~3類倉庫の利用状況 (21社)  
(千m<sup>2</sup>、%)

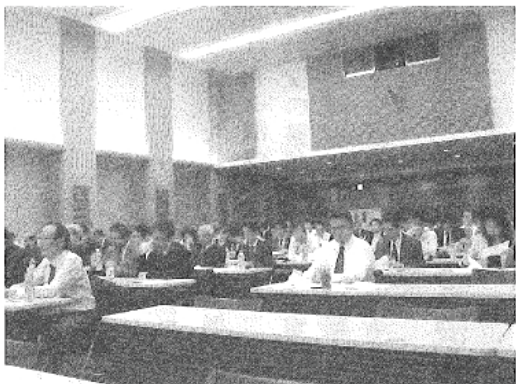
所管面積	前年同月比	在貨面積	利用率
7,121	101.6	5,649	79.3

普通営業倉庫21社統計速報  
(2012年9月分) (単位:千ト、百万円、%)

倉庫類別		入庫高		出庫高		保管残高		回転率(%)
		数量	前年同月比(%)	数量	前年同月比(%)	数量	前年同月比(%)	
1~3類	数量	2,055	96.2	2,107	94.4	4,473	201.3	46.2
	金額	826,380	92.8	855,608	94.7	1,989,623	102.4	-
野積	数量	41	105.2	38	98.5	123	140.1	32.1
	金額	11,098	88.9	10,025	89.7	34,960	132.6	-
貯蔵槽	数量	40	90.3	36	74.1	100	79.2	38.9
	金額	1,405	96.7	1,427	96.4	3,573	93.0	-
危険品	数量	9	102.4	9	107.0	17	96.4	53
	金額	4,811	103.5	4,773	108.5	10,625	113.3	-
合計	数量	2,144	96.2	2,190	94.1	4,713	101.4	45.8
	金額	843,693	92.8	871,832	94.7	2,038,781	102.9	-

注) 回転率 = (入庫高 + 出庫高) ÷ (前月末残高 + 当月末残高) × 100

(国土交通省集計)



そなえ」について語った。

角野氏は、物流施設に関する最近の傾向として、保管型から配送型へのニーズの変化に伴い高機能・賃貸型物流施設への要請が高まっていることを指摘。マーケットの

た。また、グローバル対応への課題や災害に強い物流システムの構築に向けた取り組みも報告した。

河田氏は、免震構造などBCP(事業継続計画)対策、環境認証、託児所、コンビニエンスストアの設置など進化する最新の物流センターの事例を紹介。道路インフラ整備や通販物流の進展など物流施設戦略の背景を説明するとともに、大型物流センターの空室率低下の現状、外資系、大手商社など物流不動産プレイヤーによる活発な開発動向、物流施設の投資対象としての魅力について説明した。

化に柔軟に対応するための施設の賃貸(短期)、物流子会社の切り離し、倉庫資産の売却などオフバランスが増えていることを説明し

基調講演の後、ゼネコン担当者などにより「防災/減災、BCP、これからの物流不動産の「そなえ」を考える」をテーマにパネルディスカッションも行われた。